

綿雲

わたぐも

綿をちぎったような白い雲のこと。
「積雲」とも言われています。
気象学的には雲に季節はないものの、
晴れた日の空に浮かぶふわふわとした
丸い綿雲を見れば春らしい気持ちに。

上部はモコモコしていて形がよく変わる
が雲底は平たい綿雲。
上に向かって成長する様子は
畑のねぎと一緒ですね。



春の陽気で気持ちよく作業できる季節。暑くて汗をかく日もありますが、自然豊かな環境で働けることに嬉しさを感じます。梅雨までに夏の準備を完了できるよう努めています。

今月の ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

冬と春の移ろいの中で育った春葱のお届けです

京都市内で11～12月に定植したねぎたち。10年に1度の寒波の厳しい中で過ごし、春になると一気に暖かい日が続き、季節の変化の幅を大きく感じたことでしょう。

厳しい寒さ、春になってからの急な暖かさは、ともに葱坊主が出る要因の為、今年のはっきりとした気候にねぎたちも反応したのかなと。少しでも葱坊主が出るのを遅くする為、葉面追肥をこまめに行い管理しました。抑制だけでなく、アミノ酸をねぎに供給できるので食味向上も期待できます。「美味しくなあれ」と思いながら、たっぷり栄養を吸収してもらえるよう丁寧に育てた春葱をお届けします。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

夏に向けて、春の作業を着々と

春の季節は各産地での夏に向けての準備で慌ただしく、耕起、畝立て、定植など地道に、着々と作業予定を進めています。穏やかな気候かと思えば、春の雨、台風かと感じるような強風、一気に生い茂るスピードが早くなった畑の雑草たちに時折苦戦することも。夏の産地は、亀岡・美山・丹後の3箇所です。育てたねぎをお届けするのですが、各地とも夏でも育ちやすい山間部のため、一つ一つの畑も広く、今からこの一面にねぎ畑が広がると思うとワクワクしています。



定植機で一気に苗を植えます。簡単そうに見えますが、慣れも重要！

◀農人の頑張りが垣間見える、畝立て作業途中の写真。遠くの目印を見てトラクターを運転していても、横の間隔をチラチラと気にして行くと曲がってしまいます。その失敗した経験を踏まえて、遠くだけを見ることを意識して走らせたところ、真っ直ぐの畝を立てられた！とのこと。はたから見るだけではわかりにくいですが、例えば少し曲がっていても、みんなトライ＆エラーで取り組んでいます。

— とある日の農人日記。 —

雑草が多い畑の収穫に苦戦。ねぎを刈っていても草が混じり、カゴに入れる際も分別が大変でした。時間と手間が掛かりますが、工場で調整してくれる人の負担にならない為にも、なるべく分別して頑張ります。（丹後エリア・吉田）



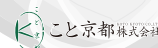
遠くの方を意識して立てられた真っ直ぐの畝。見た目も大事です！

ことわざだより

NO.192

2023年5月号

TEL: 075-601-0668



KOTO GROUP

4A



こと京都は
「野菜を食べてよう」
プロジェクトの
サポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組めます。